

下村博文文部科学大臣 来賓挨拶

皆さんこんにちは、文部科学大臣の下村博文です。

国家ビジョン研究会には、以前、東洋大学での教育シンポジウムで講師で出させていただきましたが、今度は核融合シンポジウムを開催されるということで参った次第です。本当に国内でいや世界で最先端の科学技術をシンポジウムとして企画され、そしてこんなに大勢の皆様方がご出席されているのを目の当たりにしまして、びっくりし感動しております。是非、日本から核融合の新たなうねりを作っていただきたいと思います。

今日はフランスから多田副機構長がこられているという事で、本当は、勿論私はお会いして今の途中経過は多田博士から聞いておりますが、文部科学省のどちらかと言うと科学技術系の職員がまずは最初に聞かなければならないところ、民間の国家ビジョン研究会がこのような最新の研究開発状況が報告される会を開催することに敬意と感謝を申し上げさせていただきます。

核融合エネルギーはエネルギー問題と環境問題を両方を解決し、世界平和に貢献するものであり、国家ビジョンと言うよりは人類共通のグローバル課題として人類社会に多大な影響が期待されると言うことで、今、世界全体で取り組んでいる処でございます。本日のシンポジウムのタイトルにもありますように核融合エネルギーの実現はまさに地上に人類が太陽活動をひきおこすという、これまでの中で最も壮大な長期戦のチャレンジだと思います。

わが国はこのチャレンジングな課題に対し長年にわたり世界をリードする成果を創出してきたという自負がございます。核融合エネルギーが次に進んで行くためにITER計画は最も重要なステップでありその成功に核融合エネルギーの未来がかかっているといっても過言ではありません。しかし、一国ではとても出きる事ではございませんので、これに魅力を感じる先進国が力を合わせて取り組んでいる処でございます。このITERの機器製作やその要求される精度はこれまで例の無い複雑で高度な技術が要求されているものがありますが、わが国が担当する主要機器の製作は民間企業をはじめとする関係の皆様の方の精力的な取り組みにより着実に進展しつつあります。

わが国としてはITER計画の成功のため、あらゆる方策を講じて参りたいと考えております。本日はITER機構で初代機構長であられました池田要さん、又、さきほどご紹介しましたが、今年5月からITER機構に副機構長として着任された多田栄介さんがいらっしゃっています。ITERのような大規模な国際的プロジェクトにおきまして日本の専門家が責任ある立場で貢献できることは大変素晴らしいことであると思っておりますし、政府としても全面的なバックアップ・支援をしているところでございます。

ただいま、世界七極との調整は困難な局面が多く、余りにもプロジェクトの規模が大き過ぎまた壮大過ぎて、まだ技術が追いついていない部分もあって、やや遅れ気味の所もございりますが、日本政府としては引き続き全力で支援を行いつつITERプロジェクトの成功に向けてベルナル・ビゴ新機構長の元で多田副機構長をはじめとする日本人関係者の活躍に大いに期待申し上げたいと思っております。今後核融合エネルギーの実用化に向けて重

要なことは、現在のプロジェクトを確実に成功させると共に、原型炉実現のための技術開発が不可欠となります。高い技術力と高度な専門人材を有するわが国として正にオールジャパン・産学官一体となって原型炉に向けた取り組みを着実に進め、世界をリードしていきたいと考えております。

文部科学省では、核融合エネルギーは人類の未来を拓く技術として見ておりまして、その研究開発の中核となって取り組んで行くことがITER計画への貢献であると考えております。

核融合研究開発は、本日この後ご挨拶される森先生をはじめとする多くの議連の先生方、すなわち核融合エネルギー推進議員連盟に力強くサポートしていただいております。この場を借りて改めてお礼申し上げます。ありがとうございます。膨大な予算ということで、文科省だけでは対応出来ない事でありまして、全面的にバックアップして頂いております。

本日のシンポジウムは、核融合エネルギー開発の推進に不可欠な社会における経済的な環境創りの観点からも大変有意義なものと思います。主催していただいている中西代表はじめ国家ビジョン研究会の皆様にあつく感謝申し上げます、本来この様なシンポジウムは政府がしなければならないところを民間の皆さんがしていただいている事に本当に敬意を申し上げます、ご参加の皆さん、関係者の皆さんのさらなるバックアップ、ご支援をいただきますよう申し上げます、私からの挨拶といたします。ありがとうございました。